

教育交流部門報告

国際教育交流センター教育交流部門

渡部留美・城所佑委

はじめに

国際教育交流センターに教育交流部門が設置され、2年半が経過した。27年度もセンター専任教員2名、センター所属で部局の留学生担当をしている教員4名、それ以外の8部局の14名、事務補佐員1名の構成であった。専任以外の教員は通常、各部局の国際教育交流活動や専門の教育・研究に従事しており、センターに関する活動は1割となっている。以下、センターに特化した活動のみをピックアップし報告を行う。

I. 教育交流部門の活動

1. ワーキンググループによる活動

研究生制度・大学院入試 WG

本 WG は、伊東、古谷、曾、浅川、西山、キューンがメンバーとなり、学内外への聞き取り、調査を進めた。本学の研究生制度の見直しや新しい大学院入試制度の提案を行うために検討を進めている。

留学生連帯保証業務の改善 WG

本 WG は、浅川が中心となり、本学のアパート契約時の大学の機関保証制度の課題や他大学の保証制度の取り組みについて調査し、留学生や大学にとって有益な保証制度の改善について検討を行っている。

2. 部門会議の開催

本部門では、定期的に部門会議を開催している（8月や特に議題のない月は不開催）。会議日程は全員がなるべく参加できるよう毎回日程を調整している。会議には、部門員の他、学生交流課課員および学生支援課課員にも出席いただいている。部門員には2か月に1回月報を提出してもらっている。会議の内容は、月報の報告、種々の WG からの報告、その他部門員が

協力して実施する諸活動についての提案・協議、リクルーティング活動報告、出張報告など多岐にわたる。昨年度より引き続き、毎回の会議室の確保が課題となっている。27年度は8回開催した。開催日時は下記のとおりである。

第1回	4月28日(火)	10:00-12:00
第2回	5月28日(木)	15:00-17:00
第3回	7月7日(火)	13:00-15:00
第4回	9月14日(月)	14:00-16:00
第5回	10月26日(月)	13:00-15:00
第6回	11月30日(月)	13:00-15:00
第7回	1月18日(月)	13:00-14:30
第8回	3月30日(水)	13:00-15:00

3. その他の活動

各オリエンテーション

平成27年度留学生支援経費から223千円を受給し、アドバイジング部門、学生支援課と連携し全学留学生オリエンテーションの内容改善を行った。また、NUPACE オリエンテーション、学部留学生オリエンテーションに参加し、留学生相談体制の説明、各部門員の紹介を行った。

他大学視察

各 WG では、他大学の事例を収集するために国内の大学を訪問し、ヒアリングを実施した。訪問先の詳細は下記の通りである。

出張日程	出張先	出張者
平成27年9月3日(木)	岐阜大学	曾剛, 渡部留美
9月10日(木) ~11日(金)	北海道大学	曾剛, キューン・ミツシエル, 渡部留美
9月14日(月)	広島大学	浅川晃広, 西山聖久
平成28年1月28日(木) ~29日(金)	九州大学	中島美奈子, 渡部留美
2月2日(火)	大阪大学	渡部留美

2月3日(水)	東京大学	浅川晃広, 西山聖久
2月17日(水)	立命館大学	浅川晃広, 西山聖久
2月16日(火)	立命館大学	古谷礼子, 渡部留美
3月9日(水) ~12日(土)	東北大学	渡部留美

留学生リクルーティング活動

27年度は、中国、ベトナム、タイで留学生のリクルーティング活動を行った。中国は、11月4日～19日にかけて曾、伊東、西山、キューンが吉林大学、東北大学、華中科技大学において模擬講義および留学フェアに参加した。ベトナムとタイは、3月13日～19日にかけて、伊東、石橋、レレイトが、ハノイ工科大学、ベトナム国家大学外国語大学、ベトナム国家大学人文大学、チュラロンコン大学、カセサート大学において模擬講義などに参加した。

教育交流部門主催研修会

教育交流部門主催「留学生担当者のための入管法研修会」を12月10日に開催し、講師は浅川部門員が務めた。64名の参加者があり、満席となった。研修会では、ビザ・コンプライアンスの重要性、入管法と外国人、在留資格「留学」の意味、強制送還の可能性などのトピックについて講義が行われ、その後30分ほど質疑応答の時間が設けられた。事後アンケートではほとんどの参加者が、本研修は「今後の業務に役立つ」と回答しており、入管法への理解を深める貴重な機会になったと思われる。

Education USA セミナーの開催

西山部門員が、教育推進部とともに、2015年12月14日に、米国国務省助成金により、九州大学、一橋大学との協力のもと、Education USA Leadership Institute 国際化推進フォーラムを名古屋大学で開催した。フォーラムでは、イリノイ大学 Urbana-Champaign 校で Illinois Strategic International Partnerships (ISIP) の Director であるティム・バーンズ (Tim Barnes) 氏をお招きし、戦略的国際パートナーシップの役割、イリノイ大学のパートナーシップ戦略 (POISE) について講演頂き、学内外から100名を超える教職員が参加した。

APAIE 参加

三重大学、愛知教育大学との3大学連携の一環とし

て、名古屋大学教職員研修を実施した。学内から応募した参加者と共に研修に参加した。APAIE (Asia-Pacific Association for International Education) の年次大会 (オーストラリア・メルボルン2016年2月29日～3月4日) への参加、名古屋大学からモナシユ大学に語学研修に参加している学生の授業視察、日本語学科教員との面談などを行った。(参加部門員：伊東、曾、中島、渡部)

アドバイジング部門との協働事業

RA (宿舎チューター) 研修と連絡会の開催

アドバイジング部門、学生交流課と連携し、留学生宿舎チューター (RA:レジデント・アシスタント) に対する研修を6月24日(水)、7月6日(月)(2日間とも同じ内容)に実施した。名古屋大学の国際教育交流の状況、RAの役割、文化適応について、などのトピックについて説明を行った。後半のディスカッションでは、RA活動で課題となっていることについてグループに分かれ話し合いをおこなった。また、9月10日(木)、11月11日(水)、1月27日(水)、3月9日(水)にRA、宿舎アドバイザー、関係者で連絡会を行った。(参加部門員：渡部)

RA (宿舎チューター) ハンドブック作成

平成27年度留学生支援事業から375千円を受給し、アドバイジング部門、学生交流課宿舎担当者と協働し、RAハンドブックの作成を行った。(参加部門員：城所、渡部、キューン、中島)

引越しオリエンテーションの映像化

平成27年度国際教育交流本部プロジェクト「留学生向け引越しオリエンテーションの映像化とウェブサイトへのアップ」(担当・田中京子)により、2,160千円を受給し、留学生が留学生宿舎を退去する際に提供するオリエンテーションの内容の映像化を行った。オリエンテーションに参加できない学生でも、ウェブ上で研修を受けることができ、アパートの探し方や手続き方法、機関保証制度、アパートでの暮らし方などについて、知識を得ることができる。アドバイジング部門、学生交流課と協働で作成を行った。(参加部門員：石橋、浅川、渡部)

留学生担当教職員向け研修

7月6日(月)13:30~15:00に豊田講堂第1会議室において名古屋大学国際教育交流担当者向け教職員研修「学生支援に役立つ精神疾患の基礎知識と対応上の配慮について」と題し、アドバイジング部門酒井特任講師に講演を行って頂いた。(参加部門員:城所, 渡部)

ベジタリアン食導入検討会

名古屋大学の生協メニューにベジタリアン食を導入することについて、生協とアドバイジング部門と協働で検討を行った。11月6日(金)には東大生協の担当者を招き、ベジタリアン食の提供状況について話を聞いた。平成28年1月22日(金)にはベジタリアンカレー、29日(金)には東大が提供しているベジタリアン定食の試食会を行った。平成28年3月15日(火)の第3回試食会では、前回の試食会の意見をもとに改良を行ったカレーを再度試食し検討した。

留学生受入部門(国際プログラム部門)との協働事業 英語コースカタログ WEB 更新

本学で提供している英語による授業をまとめた「英語コースカタログ」について、27年度は、ウェブ掲載のみとした。全部局から英語による授業のデータを提供いただき、OCW オフィスの協力を得、OCW に「英語コースカタログ」(<http://ocw.nagoya-u.jp/nu/>)の掲載を行った。(参加部門員:城所, 渡部)

NUSTEP 運営

名古屋大学短期日本語プログラム(平成28年2月4~18日)の企画、運営に参加した。伊東部門員は会計、エクスカーション、歓送会などを、曾部門員は専門講義などを、古谷部門員はエクスカーション付き添いなどを、城所部門員と渡部部門員は、アンケート、オリエンテーション、歓送会などを担当した。(参加部門員:伊東, 古谷, 曾, 城所, 渡部)

II. 個人の活動(渡部)

1. 国際教育交流活動

26年度に引き続き、後期に開講されている全学教養科目「留学生と日本」の担当教員として参加した。27年度は代表を務めた。また、G30学生向け全学教養

科目「切迫する自然災害に備える(Preparedness for Imminent Natural Disaster)」(工学研究科レイト講師が代表)に担当の一人として参加した。

G30アドミッションオフィスの要請により、サウジアラビア王国進学フェア(the 6th International Exhibition and Conference on Higher Education)に教員2名と共に参加した。アメリカやイギリスなど多くの英語圏の大学が出展するなかで、日本の大学の参加は10大学程度であった。中東は初めての訪問であったが、少数ではあるが、日本に興味(主にポップカルチャー)のある学生・生徒がブースを訪れ、日本について様々な質問を受けた。大変貴重な機会となった。

日本語研修生に対するオリエンテーション(6ヶ月コース生、日本語日本文化研究生、日韓共同理工系学部生)に参加し、アドバイジング部門、学生交流課職員と共に書類の記入などのサポートを行った。

学外からの訪問者への対応として、7月30日(木)に「ベトナム日本センター(ハノイ)第6期経営塾」において「名古屋大学における国際交流事業」についての説明、10月2日(金)に「JENESYS2015」(フィリピンからの訪問)において、「名古屋大学における国際連携・共同研究・交流事業」の説明、11月27日(金)に藤森中学校の生徒への留学生受入についての説明を行った。

施設管理部「キャンパスマスタープラン2016」の国際交流部分の執筆を担当した。

名古屋大学ホームページのトップページに「名古屋大学への留学を希望する方へ」というバナーを置き、本学への入学を希望する留学生向けページを作成した。

2. 研修・教育活動

APAIE(Asia-Pacific Association for International Education)の年次大会に教職員研修として参加し、コーディネーターを務めた。本研修には6名の教職員が参加した。今回は、期間中に、本学の協定校であるモナシュ大学訪問も組み込まれ、2度訪れた。一度目は、春季語学研修に参加している本学学生の授業視察及びモナシュカレッジ担当者との意見交換であった。プログラム内容や学生支援体制、日本人学生の動向などについて情報収集を行った。二度目は、モナシュ大学日本語学科教員2名との面談である。オーストラリアの日本語学習熱、教育制度などから、モナシュ大学

で日本語を学習、専攻している学生数とレベル、日本への交換留学の現況について伺った。国際教育交流センターが提供する短期日本語プログラム：NUSTEPの紹介を行ったが、2週間という期間では、単位互換するには短すぎるので派遣は難しいのではないかという貴重な意見をいただいた。

おわりに

本部門の部門員は、多くが講師ポストであり、部局によっては任期がついているところもあり、部門員の

入れ替わりが激しいのが特徴の一つである。平成27年度中に部門員の入れ替わりが何名かあった。人員の加入は、教育交流部門に新しい風を吹き込んで下さり、国際教育交流の諸業務について客観的な目で見てください、新しいアイデアや忌憚のない意見をいただくよい機会となっている。一方で、国際教育交流や留学生受入れについて始めて業務を行う部門員もいる。彼ら/彼女らに対しては、本学で長年経験を積んだ先輩が適切な助言や情報提供をしてくださる。人員の入れ替わりの激しさを逆に利点とし、来年度以降も本学の国際化推進を行っていきたいと考えている。